

2017年度 認知神経リハビリテーション・ベーシックコース（岩手）プログラム

1日目

[リハビリテーション脳科学]

09:20- 認知の樹（映像）

09:30-11:00（90） 講義1）行為と認知のニューロサイエンス（森岡）

①運動発現とその制御機構 ②比較学習モデルと身体意識（所有・主体）の関係性 ③神経可塑性のメカニズムと回復

11:10-12:30（80） 講義2）高次脳機能障害の回復を探究する（玉木）

①左右半球機能差と高次脳機能障害 ②失行症と半側空間無視の神経機構 ③評価と訓練の介入例

[認知神経リハビリテーション入門]

13:20-14:20（60） 講義3）認知神経理論（園田）

①身体・運動に対する新たな視点取得 ②認知プロセスからみた病態解釈と介入可能性 ③臨床におけるアウトカムの再考

14:30-15:30（60） 講義4）行為の空間と記憶～多感覚統合の神経科学（森岡）

①行為空間生成と多感覚統合のメカニズム ②行為の記憶と想起における神経表象 ③比較器官としての脳

15:40-16:40（60） 講義5）病態分析と病態解釈（金森）

①脳画像検査や手術所見などから得られる情報から数量化、視覚化可能な検査チャートによる評価まで

②外部観察・・・姿勢と動作の特徴（自発的・規定動作）、神経学的病理、特異的な運動の異常要素、行為システム

③内部観察・・・認知過程の変質、意識経験の変質、観察のためのプロフィール、一人称言語記述、意識の志向性

16:40-17:30（50） 演習1）外部観察と内部観察の実際（金森・園田・補助講師）

17:40-18:30（50） 演習2）道具と訓練（及川・中田）

①物理的道具と心理的道具 ②ツールとしての訓練器具・運動イメージ・言語・他者観察 ③「問題」とは何か

2日目

[脳の中の訓練室]

09:00-09:50（50） 演習3）認知問題と訓練の組織化～行為システムとの関連付け（玉木・園田・補助講師）

①身体部位、訓練段階、感覚モダリティ ②空間問題と接触問題 ③内容・方法（肢位・道具）・検証

10:00-13:00（180） 演習4）上肢・体幹・下肢に対する認知神経リハビリテーションの実際

（講師・補助講師・実技補助講師）

①病態と行為システムと訓練器具の関係 ②難易度の調整 ③基本的手続き

13:50-14:40（50） 講義6）臨床講義～症例の実際（及川・中田）

①観察と病態解釈 ②評価的訓練の実際 ③訓練の実際

[認知運動療法から行為間比較へ]

14:50-16:00（70） 講義7）行為間比較～訓練から行為への橋渡し（園田）

①身体化された認知 ②行為の目的・状況・文脈 ③行為の全体性・複合性・拡張性・時間性

16:00-16:30（30） 演習5）行為間比較の実際～多感覚の整合性と行為の自律に向けて（金森・園田）

①行為間比較におけるリハビリテーションカルテ ②多感覚統合と訓練 ③道具立てとしての自伝的記憶

終了